県民と郷土を結ぶ総合博物館

青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻165号　平成28年（2016）6月30日　Vol.47 No.1

県重宝　日本刀　無銘
（伝備中古青江貞次作　当館蔵）

日本刀は日本文化を代表する美術工芸品です。近年は、マンガやゲーム等の影響で、若い女性たちや海外でも再注目され、新しい価値観やイメージも生まれています。

しかし現実の日本刀は、古代に大陸から伝来した直刀や国内生産の上古刀、蕨手刀等を基盤として、平安期に古代の北東北一帯を重要な地域として誕生したといわれています。その後、武具や身分表象具、贈答品など、多様な役割を果たし、アイヌなどの異文化にも影響を与えてきた歴史的な存在です。また、神事や民俗芸能では魔除けなどの呪具としても使われました。そして近代以降は、剪定鋏製作技法等のなかで活用されました。

本展では、青森県の歴史のなかで活躍した主な刀剣類を紹介するとともに、日本刀を通じて、ふるさとの先人達が熟成した独自の精神観と文化について、青森県の視点からとらえていきます。

（主任学芸主査　小山隆秀）

●主催　青森県立郷土館
●共催　東奥日報社
●期間　平成28年7月15日（金）～8月28日（日）
　　開催期間45日間、休館日なし。
　　会期中一部展示替えあり。
●会場　青森県立郷土館特別展示室（大ホール）

●展示構成及び主な展示資料
(1)「日本刀以前」　：古代の直刀や蕨手刀、岩木山麓の鬼神太夫伝説等
(2)「歴史のなかの刀剣」　：青森県内の国および県指定文化財刀剣類および郷土刀、神社に奉納された刀剣、藩主の刀剣、剣豪の刀、アイヌの刀剣等
(3)「近代を拓いた刀剣」　：明治維新後の刀匠が造った農具等
(4)「くらしに生きる刀剣魂」：現代の神事や民俗芸能、人生儀礼のなかの刀剣類等

●特別展関連公開講座「土曜セミナー」・「青森の達人」（於当館小ホール13:30～15:00 無料）
(1)7月16日（土）「刀剣の手入れ（実演）」　前県古式銃砲刀剣類登録審査委員 美濃又治次氏、県古式銃砲刀剣類登録審査委員 杉本孝氏
(2)7月23日（土）「武士とおしゃれと日本刀」　刀剣魂特別講師　音喜多勝氏
(3)7月30日（土）「文化庁より譲与を受けた展示中の赤羽刀（接収刀剣類について）」　美濃又治次氏
(4)8月6日（土）「日本刀の歴史について～平安時代から現代まで～」　杉本孝氏
(5)8月20日（土）「刀剣魂アレコレ」　当館学芸員　太田原慶子
(6)8月27日（土）（青森の達人2）「抜刀演武ー刀のリアルー」　弘前藩伝林崎新夢想流居合　外崎源人氏

特別展　刀剣魂　展示会詳細

本展示は四つの章から成り立ちます。主な資料とともに紹介しましょう。

まず第一章「日本刀以前」では、八戸市丹後平古墳出土の古代の美しい直刀と、在地の人々が造ったとみられる東北町東道ノ上(３)遺跡出土の蕨手刀を見くらべながら、日本刀誕生以前の世界に思いをはせます。

第二章「歴史のなかの刀剣」では、かつて諸大名や豪族が所有し、県内各地で大事に守られてきた国および県・市指定文化財の貴重刀剣類が大集合するとともに、旧八戸藩および旧弘前藩の郷土刀、神社に奉納された巨大な刀剣類、剣豪の刀、アイヌの刀等、様々な刀剣類を紹介いたします。

第三章「近代を拓いた刀剣」では、明治以降、武器としての役割を終えた刀剣類が、どのように生きのびたのかについて、残された実物資料から見つめていきます。

第四章「くらしに生きる刀剣魂」では、失われたはずの刀剣文化の魂が、いまもなお、わたしたちの身近なくらしに受け継がれていることを紹介いたします。

このほかにも、霊峰岩木山山麓の巌鬼山神社に代々伝わり、伝説の鬼神太夫が鍛えたという御神刀や、近年、ゲームの世界で大人気となった鎌倉期の刀工青江貞次作と伝えられる稀少刀剣も公開いたします。皆様のお越しをお待ちしております。

（主任学芸主査　小山隆秀）

県重宝　日本刀　銘備州長船幸光
（八戸市櫛引八幡宮蔵）

県重宝　短刀　銘奥州津軽住国廣
（弘前市立博物館蔵）

鬼神太夫が作ったとされる鬼神丸
（弘前市巌鬼山神社蔵）

県重宝　日本刀　銘相州住綱広
漆塗銀蛭巻鞘拵（弘前市岩木山神社蔵）

国重要文化財　太刀　銘真守
（弘前市高照神社蔵）　※7月27日まで展示

企画展　向山満コレクション「コウモリの不思議」

期間：平成２８年5月２０日　～　平成２８年7月３日

平成24年11月18日、コウモリの研究家として著名な向山満が不慮の事故で他界されました。翌年、家族から膨大なコウモリ標本、調査資料、写真、グッズなどが一括して当博物館に寄贈されました。これらのコウモリの資料は国内でも有数なコレクションです。今回、これらの寄贈資料を紹介する企画展を開催しました。

向山満は、昭和17年新潟県佐渡島出身で、昭和40年弘前大学文理学部卒業後、県立三戸高等学校に赴任され、定年まで同校に勤務されました。この間、自然科学部顧問として生徒と共にコウモリ類を中心に自然誌解明の総合的な調査研究を行いました。七戸町天間舘神社のヒナコウモリの蝙蝠小舎への移住は、成功例として世界的に知られた業績です。その後のコウモリの保護・保全活動に先鞭を付けたと言われています。

今回の展示会では、向山満コレクションのコウモリの標本、グッズ、写真など約千点を展示しました。会場には、三戸高等学校の自然科学部ＯＢや教え子、コウモリの研究者等多くの方々が会場を訪れ、向山満を偲び、コウモリの生態や保全等の理解を深めていました。

（学芸員　山内　智）

歴史展示室リニューアル

歴史展示室のうち、古代・中世の部分は、この春、25年ぶりに改修を行いました。一部展示品の入れ替えを行い、十三湊遺跡の出土の瀬戸・越前・珠洲産陶器のほか、中国・朝鮮産の磁器、鉄製品、曲物（まげもの）を含む12点を新たに展示に加えました。

十三湊は、13世紀初めに成立した港町で、その遺跡は現在の五所川原市十三地区にあります。14世紀中頃には大きく発展し、当時としては日本屈指の港湾都市となりました。ここを拠点にした津軽安藤氏は、北海道をはじめとした、各地との交易を行っていました。出土遺物のなかには天目茶碗など高価な品物が含まれ、その経済力がうかがわれます。15世紀中頃近く、安藤氏は南部氏との抗争に敗れたため蝦夷地に逃れ、港町は衰退しました。

十三湊遺跡は、平成3（1991）年から国立歴史民俗博物館等による調査が行われ、平成17（2005）年、国の史跡に指定されました。

今回の改修では、そのほか、照明器具の一部LED化、パネル・展示台の更新等を行いました。この機会に歴史展示室をご覧いただければ幸いです。

（主任学芸主査　佐藤　良宣）

改修を行った中世コーナー

新設した十三湊遺跡出土遺物

ゴールデンウィーク＆国際博物館の日

5月3日（火）～5月5日（木）の三日間、ゴールデンウィーク期間の特別イベントとして、こども向けの鎧試着イベントを行いました。

県内各地からたくさんのご家族が参加され、鎧を身に着けてポーズをとる我が子を写真におさめようと、熱心にカメラを構える親御さんの姿が印象的でした。

また、5月21日（土）と22日（日）は、国際博物館会議（ＩＣＯＭ）が定める「国際博物館の日」に関連し、観覧料を無料にしました。

２１日は落語家の三遊亭大楽さんを招き、「寝床」（ねどこ）「薬缶」（やかん）「勘定板」（かんじょういた）と三つの演目を披露していただきました。

生の落語を聞くことができるまたとない機会とあって、会場は予想を上回るお客様であふれ、大きな笑い声につつまれていました。

3階わくわく体験ルームは今までにないほどの活気でした。

100名以上の参加者の笑いが絶えませんでした。

（広報担当　櫻庭　友輔）

平成２８年度　土曜セミナー予定（前期）

7月2日	津軽海峡と動物のすみ分け	山内　智
7月9日	地質を知って災害に備える	島口　天
7月16日	特別連続講座 刀剣の手入れ（実演）	特別講師：前県古式銃砲刀剣類登録審査委員 美濃又　治次 特別講師：県古式銃砲刀剣類登録審査委員 杉本　孝
7月23日	特別連続講座 武士とおしゃれと日本刀	刀剣魂特別講師 音喜多　勝
7月30日	特別連続講座 文化庁より譲与を受けた展示中の 赤羽刀（接収刀剣類）について	特別講師：前県古式銃砲刀剣類登録審査委員 美濃又　治次
8月6日	特別連続講座 日本刀の歴史について ～平安時代から現代まで～	特別講師：県古式銃砲刀剣類登録審査委員 杉本　孝
8月13日	休講	
8月20日	特別連続講座 刀剣魂アレコレ	太田原　慶子
8月27日	特別連続講座 青森の達人２　抜刀演武-刀のリアル-	特別講師：弘前藩伝林崎新夢想流居合 外崎　源人
9月3日～ 10月22日	休講	

総合博物館　青森県立郷土館だより　Vol.47　No.1　通巻165号　2016.6.30
【編集・発行】青森県立郷土館／TTHAグループ　【TEL】017-777-1585
〒030-0802　青森市本町二丁目8－14　【FAX】017-777-1588